

美術館からのお知らせ



今月の展覧会

日光市制施行50周年記念 名誉市民・清水比庵展

5月22日(土) 7月11日(日) 毎週月曜日休館

昭和五年から九年間、日光町の町長を務め、徳川家正や小杉放菴とともに日光市の初代名誉市民に選ばれた清水比庵は、歌誌『窓日』を率いて活躍した歌人でもありました。万葉ぶりに字んだ力強い歌、そして自由奔放な書と画とが生み出す、生氣あふれる美の世界をお楽しみ下さい。

出品協力 笠岡市立竹喬美術館

山林寂(昭和50年)



つつじ(昭和44年)

つつじ咲くふるさとの山そのむかし上りしままの路のあるかも



これからの催物

朗読劇 ^{しゃくじょう} 錫杖の花・勝道上人物語

日光開山の祖、勝道上人。その生涯は、未だ多くの謎と伝説に包まれたままです。このたび、水樹涼子氏による「聖なる衝動 日光開山の祖 勝道上人」を原作に、堀江安夫氏が書き下ろした朗読劇「^{しゃくじょう}錫杖の花・勝道上人物語」を、当美術館にて上演できることになりました。舞台に朗読に幅広く活躍されている、劇団「文化座」代表の佐々木愛さんが、勝道上人の物語を演じます。

日時 | 6月26日(土)・27日(日) 午後6時30分

場所 | 小杉放菴記念日光美術館エントランスホール

出演 | 佐々木愛(文化座)

【チケット】 料金2,500円 小杉放菴記念日光美術館と日光市中央公民館において発売中。(ただし、美術館と中央公民館の休館日は除きます)

150名の定員に達し次第、締め切らせていただきます。



連載5

美術館教育の現場から

今回も、子供たちに体験してもらっている絵の見方についてご紹介します。それは、一枚の絵の前に坐って、その絵をじっくりと見ながら、絵から感じるさまざまな事柄を語り合うという、対話を重視した方法です。美術館では、小杉放菴が描いた半円形のとても大きな作品「泉」を用いてこの方法を行っています。

「泉」の前に坐った子供たちに向かって、学芸員が「何が見えるかな」と問いかけると、子供たちはまず画面に描かれているものに関心を示し、木や花や水といった、もの名前を次々に挙げてくれます。さらに、画面をすみずみまでよく見ていくと、今度は絵のなかの気温や流れている風の動き、においといった目に見えないものにも気づきはじめます。そして、話が波に乗ってくると、子供ならではの豊かな感性がどんどん刺激され、学芸員も気づけなかった新鮮な解釈が飛び出していきます。

一枚の絵から生まれる対話には、自分ひとりで見ているときには味わうことができない、絵の楽しみ方がたくさん含まれています。また、人の話に耳を傾けることにより、今まで自分では意識していなかった事柄に気づくことができます。